



サンビオティック農業で大豊作！

きゅうり・ゴーヤー栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
育苗期		育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	播種または鉢上げする場合は培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和します。上記混和後2週間程度おいて良くなじんでから使用します。
		(健苗育成) 菌力アップ コーソゴールド (高温・乾燥対策) イーオス タスケルプ！	200倍希釈 500倍希釈 300～500倍希釈 2000倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	発芽後やセルトレー育苗の場合は菌力アップは500倍希釈、本葉展開後は300倍希釈、ポットへ鉢上げ後は100～200倍希釈で灌水します。培土に元肥が入っていない場合や、肥料が足りない場合は、市販のNPK液肥を混用します。 (自身で接ぎ木や挿し木する場合は、切断面に菌力アップが掛からないように注意し、活着後からご使用ください。) 夏季や乾燥しがちな時期の育苗や、病害対策の場合、または徒長気味の時はイーオスとタスケルプ！を使用します。菌力アップとは混用しません。苗立枯病、つる枯病等の糸状菌病害の対策では、さらに本気Ca(マジカル)2000倍希釈を加用します。
		コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 (7～10日おき)	花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。病害虫多発時は、本気Ca(マジカル)2000倍を加用します。
本圃準備 (元肥)		五穀堆肥 有機百倍 鈴成	(夏秋) 50袋 7～10袋 10袋 (冬春) 50袋 10～15袋 15袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pHを6.5程度に調整するため、石灰、苦土などを施用しておきます。苦土入りのカキ殻石灰などがお勧めです。 その後、2～3トン程度パーク堆肥・牛糞堆肥などの堆肥を施用します。五穀堆肥の場合は50袋です。豚糞、鶏糞の場合は、500kg以下とします。堆肥施用後、菌力アップ10Lを希釈して散布し、耕耘・混和し、1か月置きます。 薬剤土壌消毒や太陽熱消毒、還元消毒をした後は微生物が減っています。消毒後に必ず菌力アップ5～10リットルを灌水します。 元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。その他、苦土や加里などの不足は、市販肥料で補います。(硫酸苦土、硫酸加里)
定植期～ 初期生育		菌力アップ コーソゴールド 本気Ca	5リットル 2kg 1リットル	5～7日おきに 灌水(4回以上)	活着促進、初期生育の促進のため、定植直後は菌力アップ200倍を、1～2回ほど手灌水します。(どぶ漬けも良い。) 活着後は、左記のとおり。水量は1トン程度、十分にしみわたる量。暑い時期や徒長時(窒素過多)には、発根するためイーオス500倍希釈を菌力アップとは3日空けて灌水します。 海王5000倍希釈を葉面散布または灌水すると、初期生育を促進します。さらに、コーソゴールド500倍、本気Ca2000倍を混合して葉面散布すると、病害予防、着花促進等に良い。農薬との混用も可。
収穫開始～		(収量アップ) 菌力アップ 糖力アップ コーソゴールド (本気Ca	5リットル 5～10kg 2～3kg 2～3kg)	7日おきに 灌水(継続) (1～2トンの水 で希釈)	収穫期間を通じて発根作用を停滞させないことが重要。そのため、菌力アップは秋口～年内、および春先3月～4月は必ず施用する。(春先のセンチュウ被害対策にもなります。) 糖力アップは収量アップ、なり疲れ防止で収穫開始期から使用を始め、着果負担を見ながら量を調節します。収穫最盛期、なり疲れがひどい場合、曇天・低温が続く場合は、3～5日おきにするなど、糖力アップを増やして対応します。逆に春先、草勢が強くなりすぎるときはやめます。 コーソゴールドは、食味・品質向上、病害予防。栽培後半や、日中暑くなってきたら、カルシウム欠乏が出やすいので、本気Ca2～3kgをコーソゴールドとは別の日に灌水します。
		(成長促進) タスケルプ！	2000～3000倍	葉面散布 (月2～3回)	厳寒期やなり込みの多い時期(なり疲れ対策)、芯止まり対策、または玉太りの促進として、タスケルプ！を葉面散布します。農薬との混用は可です。
		(花芽・品質向上) コーソゴールド 本気Ca(マジカル)	500倍希釈 2000～5000倍希釈	7日おきに 葉面散布 (月2～3回)	発酵リン酸とキレートカルシウムを吸収し、花落ちの防止、玉肥大、食味の向上、軟果防止に効果的です。果実が汚れる場合がありますので、本気Caは薄めからお試ください。 煙霧機で散布する場合は、コーソゴールド200g、本気Caは100g、それぞれ混ぜずに別々に噴霧します。

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
	収穫開始 ～	(生理障害予防) マジ鉄 海王	5,000倍希釈 5,000倍希釈	7日おきに 葉面散布 (随時)	マジ鉄は、光合成と糖の転流を促進、そして物質変換の酵素を活性化します。新葉のミネラル欠乏を防ぎ、ワックスを作ります。花芽分化や花落ち防止にも。海王は、植物ホルモンの働きを良くします。農薬、上記資材との混用可。
	追肥	有機百倍 (硫酸加里肥料)	1袋／回 1.5～2kg／回)	1～2週間おき、 または1t収穫ご とに追肥	固形肥料を中心に追肥に使用する場合は、有機百倍を、1～2週間おき、または1トン収穫ごとに1袋/10a程度を追肥します。有機百倍は加里成分が少ないため、同時に硫酸加里肥料を1.5～2kg程度、有機百倍と混ぜて施用します。堆肥等の施用量が少なかった場合や砂質土壌の場合は、加里が不足する場合がありますので、硫酸加里肥料を少し多めに施用します。
病虫害 発生時	フザリウム、ツル枯れ、ツル割れ、ホモプシス、センチュウなど	菌力アップ 純正木酢液 本気Ca	10リットル 1000倍希釈 1000倍希釈	灌水(水1トン) 3日おき4回以 上	土壌病害は、必ず初期症状で発見し対応します。病名が判明していて適用薬剤があれば、殺菌剤等を使用したのちに、菌力アップ、純正木酢液、本気Caを多量・集中的に灌水します。病害の蔓延・拡大のリスクに対応します。ネコブセンチュウの場合は、純正木酢液を糖力アップ5リットルに置き換えて施用します。3日おき4回灌水が終了したら、使用量は半分にして、7日おきに灌水を継続します。
	葉の病害虫(葉カビ、うどん粉病等)	本格にがり 純正木酢液、または イーオス	500倍希釈 500倍希釈	3～4日おきに 葉面散布(5回)	殺菌剤を併用し、葉面散布します。にがり、木酢は細胞壁や繊維質を強化します。天敵昆虫・ミツバチには影響ありません。コーソゴールド500～1000倍を混用すると、光合成を向上させ、さらに耐病性を高めます。

※糖力アップは、点滴灌水、ドリップ灌水では詰まりますので使用をお控えください。→ななちゃんを推奨します。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。